

道しるべ

第55号

「すすき」

撮影：森 正廣 2018.9.25

日本人なら知らない人はいない身近な植物
全国に広く分布する 「すすき」
秋のどこか物寂しいイメージが・・・(-_-;)



このすすきと十五夜(中秋の名月)の関係は意外と知られて
いません。
秋の収穫の感謝として、芋・豆などの収穫物を月に供えた祭事。
本来、稲穂も供えたかったのですが、まだ稲が実る前の時期、
穂の出たすすきを稲穂に見立てて飾ったとされています。
また、古くからすすきは「**神様の依り代**」と考えられていました。
内部が空洞のため、神様の宿り場になると信じられていました。
そのため、魔除けにもすすきが飾られ、かやぶき屋根にも使われる
ようになりました。

※すすきの別名、萱(かや)

今では、十五夜を楽しむ風習はうすれています。
でも、一年に一度、最も月が美しく見えるこの月に、月を見上げて
名月の美しさを感じてほしいものです。

「月々に月見る月は多けれど 月見る月はこの月の月」 ん～なんだかわか
らな～い

「海風に、がけの芒の、折れもせず」 (田中 擁子 作)

平成30年10月 森 正廣



「ゆずり合い運転」以上の「ゆずる運転」

「交通事故を起こさない安全運転」と「交通事故に遭わない防衛運転」の違いは？

安全運転は「ゆずり合い運転」の実践ですが、防衛運転では「ゆずる運転」を実践することです。だからと言って「いつもゆずっているから、今日は相手がゆずってくれるかもしれない」と、道の上で見ず知らずの人に「ゆずり合い」を期待するものではありません。



こちらが「先に停まる=いつもゆずる」との防衛運転の考え方はシンプルで迷いがなく、「認知⇒判断⇒操作」連続行動においても瞬時に対応できます。

防衛運転では「先に停まる=いつもゆずる」との自分の意思を「早く分かりやすく「発信」することが求められます。

その方法として、ヘッドライト・方向指示器（ハザードランプ）・ブレーキランプの使い方や、運転室内からのジェスチャーでの発信を、早く分かりやすくすることが求められます。

クラクションも鳴らし続ければ「怒りの意思表示」になりますが短く鳴らせば「ありがと意思表示」に変わります。

「運転マナーが悪い人」とは「交通違反が多い人」であり「交通事故が多い人」であるといえます。

最近の「あおり運転」に関する交通事故やトラブルの報道については、発生件数が急増したのではなく、かねてより周囲に運転マナーが悪い人がいた事実に注目した報道であるように感じます。



通常、「あおり運転」になりやすい状態とは「あせり運転」の状態です。

急ぎの心理による加速が、前方車両と車間距離を短くして、威嚇しているような走り方に見られます。

「いかり運転」も「あせり運転」と同様に「あおり運転」の状態に近づきます。原因の一つに運転者同士のコミュニケーションが取りづらいことが挙げられます。

「車線変更で入れてくれた」と思ったら、ハザードランプで合図をして「ありがとう」の意思の発信を。

「割り込んでしまった」と思ったら、ハザードランプで合図をして「ごめんなさい」の意思の発信を。

北海道胆振東部地震では、停電による全ての信号機が停止する緊急事態にもかかわらず、ドライバー同士の譲り合いで大きな事故もなく復旧に至りました。

互いの合図による意思疎通は、互いに大人の運転になり「あせりやいかり」の感情を抑える効果が見込まれます。

「あおり運転」をしないように「ゆずる運転」を。

「あおり運転」をされないような「ゆずる運転」を。

多くの人々の運転行動が「ゆずる運転」になれば、道の上の車社会も今以上に安全で安心な社会になると思います。

